

平成29年度
**県南教育事務所重点施策に関する
 調査結果について**

学校教育課通信

平成30年3月22日(木)第140号
 編集・発行：県南教育事務所 福地裕之

平成29年度末の調査結果から、今年度の県南域内の小・中学校の取組について振り返り、成果と課題についてまとめました。各項目の下段に記載しましたので参考にしてください。(○：成果 ▲：課題)

本校の調査結果と比較しながらご覧いただき、次年度の学校経営に生かしていただきたいと思います。調査への御協力ありがとうございました。

* 3:あてはまる 2:ほぼあてはまる 1:あまりあてはまらない 0:全くあてはまらない(網かけは平均値2以下の項目)

1 豊かなこころの育成				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	道徳教育の充実	①	「考え、議論する道徳」をめざし、多様な指導方法、指導体制の工夫改善をしている。	2.21	2.33
		②	授業参観等で道徳の授業公開を積極的に実施している。	2.85	2.28
(2)	教育相談体制の整備	③	児童生徒のニーズに応じた心のケアのため、保護者やSC、SSW、関係機関との連携を密にした教育相談体制が整っている。	2.85	2.83
		④	前年度の同じ時期と比較し、いじめや不登校が減少している。	2.64	2.06
<p>○ 授業参観等で道徳の授業公開を行っている小・中学校が増え、家庭や地域との連携を図る取組がなされている。</p> <p>○ ほとんどの学校で、保護者やSC、SSW、関係機関と連携した教育相談体制が構築され、児童生徒のニーズに応じた心のケアが行われている。</p> <p>▲ 中学校に配置されているSCが、同じ中学校区の小学校に出向いて相談にあたる形態を積極的に行うことで、さらにきめ細かい教育相談体制を構築することができる。</p> <p>▲ SSWの役割や活用の手続きについて、十分に理解されていない状況にある。県南教育事務所としては、今後も会議や研修会の際に周知に努め、活用を促していく。</p>					

2 健やかな体の育成				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	体力の向上に関する取組の充実	①	「体力向上推進計画書」について、全職員で共通理解を図り、取組を行っている。	2.56	2.28
(2)	食育の推進	②	ふくしまっ子ごはんコンテストに参加した児童生徒数 ※9月のみ回答	1164名	1404名
		③	食育の授業を実施した学級の割合(該当学級数 / 全学級数)	92%	72%
(3)	健康教育の推進	④	健康教育推進のため、自分手帳、健康手帳等を活用している。	2.23	2.44
		⑤	肥満度50%以上の児童生徒数__名 *直近の調査	84名	80名
		⑥	肥満度50%以上の児童生徒のうち、肥満の改善を目指した個別指導を行っている児童生徒数 ※肥満度50%以上の児童生徒がいる学校のみ回答	57名	36名
		⑦	全歯(乳歯+永久歯)う歯処置完了者数 名/う歯有病者数 名【小学校】 永久歯う歯処置完了数 名/う歯有病者数 名【中学校】	78%	66%
<p>○ 校内の共通理解を図りながら、児童生徒の体力向上に取り組んでいる学校の割合が増えた。各校で、「体力向上推進計画」と関連させた実践が組織的に行われている。</p> <p>○ 各学校で「食に関する指導の全体計画」「給食指導計画」が作成され、栄養教諭や養護教諭、栄養技師等と連携した食育に関する授業実践が行われている。</p> <p>▲ 肥満度50%以上の児童生徒数は9月の調査より減少したが、県南の肥満傾向児の出現率は依然として全国平均を上回っている。今後も、自分手帳の活用等「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト事業」を中心とした、運動習慣や生活習慣改善の継続的な指導が必要である。</p>					

3 確かな学力の向上				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	「確かな学力」の向上を図る継続的な検証改善サイクルの確立	①	学力向上グランドデザインに基づく取組を見直し、マネジメントワークシートを活用して見直し、改善を行っている。	2.64	2.28
(2)	「確かな学力」の向上を図る授業づくり	②	板書計画を生かした授業づくりを行っている。	2.54	2.56
		③	学力調査の結果をもとに自校の課題を明確にし、指導の工夫改善に取り組んでいる。	2.85	2.50
		④	ふくしまの授業スタンダードを活用し、授業改善に生かしている。	2.59	2.72
		⑤	自校の研究テーマについて共通実践を行い、校内研修を活性化している。	2.90	2.89
(3)	「確かな学力」の向上を支える基盤づくり	⑥	家庭学習や読書の習慣化に向けて、積極的な取組を行っている。	2.90	2.56
<p>○ 各校で「学力向上マネジメントワークシート」を活用したPDCAサイクルが確立し、定期的な学習指導の見直しや改善が行われている。また、校内研修の活性化に関する評価が高く、域内小・中学校の学力向上に向けた研修が充実している。</p> <p>○ 「授業スタンダード」の活用が図られ、学習指導法だけでなく、授業の基盤づくりを大切にした学習指導が行われている。</p> <p>▲ 各校の児童生徒の実態に応じて、各校の学力向上の取組と「授業スタンダード」、家庭学習の定着に向けた取組と「家庭学習スタンダード」の関連を図った、実効性のある指導が求められる。</p>					

4 特別支援教育の充実				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進	①	「個別の教育支援計画」を作成し、情報の共有や進級・進学時の引継等に活用されている。 *作成する対象は、配慮や支援を必要とする児童生徒全てです。	2.72	2.39
		②	障がいのある児童生徒一人一人の実態に応じた交流及び共同学習を実施している。 *特別支援学級のある学校のみ回答	2.96	2.42
(2)	幼稚園、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実	③	配慮や支援を必要とする児童生徒の支援策を検討し、役割を明確にして支援を進めている。	2.72	2.50
		③	特別支援教育に関する校内研修を行っている。	2.51	2.28
<p>○ ほぼ全ての学校で「個別の教育支援計画」の作成と活用がなされ、児童生徒の実態に応じたよりきめ細かい指導が行われるようになってきている。</p> <p>▲ 通常学級を担任している教員の専門性の向上が求められる。児童生徒への対応を検討するケース会議や、障がいの特性等について研修する機会を設定し、特別支援教育に関する理解を深めていく必要がある。</p>					

5 学校教育を支える基盤				評価平均	
				小学校	中学校
(1)	教職員のサービス・勤務の確立と適正な人事管理	①	新しい人事評価について、全教職員が理解し、運用している。	2.92	2.78
		②	衛生推進者を選任し、校内の安全衛生に関する職場環境の改善に努めている。	2.67	2.28
(2)	学校事故防止の徹底と不祥事の絶無	③	校内サービス倫理委員会に、学校評議員や地域住民・保護者等に参加いただき、効果的な取組を進めている。	1.85	1.50
		④	信頼される学校づくりを職場の力で【平成29年改訂版】を活用している。	2.92	2.83
(3)	開かれた学校づくりと関係機関との連携強化	⑤	保護者は、学校や学級の経営方針について理解している。	2.74	2.56
		⑥	学校評価の「学校関係者評価」について公表している。	2.54	2.72
		⑦	地教委や関係機関との連携に努めている。	2.92	2.94
<p>○ 人事評価について、校内における全職員が理解し、運用していると回答した学校が100%となった。不祥事の絶無については、職員による交通加害事故が昨年よりも減少した。</p> <p>▲ 各学校の校内サービス倫理委員会において、「信頼される学校づくりを職場の力で」の活用がよく図られているが、サービス倫理委員会の持ち方がマンネリ化しないよう、外部人材の活用など、工夫や改善が求められる。</p>					